地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 2
2012.6

ニュース

平成24年度 入学式を挙行

特集1 薬学部3学科共通特別講演
患者の気持ち

特集2 地域・企業と共に商品開発
休耕地活用プロジェクト

特集3 国・地域・大学を越えた英語教育
英語スピーチコンテスト

城西 Vol.2 2012.6

目次

02 [ニュース] 巣立つ城西人、新しい城西人
学位記授与式／入学式

04 特集1
薬学部3学科共通特別講演

06 特集2
休耕地活用プロジェクト

07 特集3
英語スピーチコンテスト

08 [連載]
城西の未来創り
～中期目標と維持協力会～

11 [連載]
「高麗川プロジェクト」発展

12 [シリーズ]
浮世絵 ／ 食事設計 ／ JOSAI·JINZAI

14 [ニュース]

18 [紀尾井ニュース]
BOOK　REVIEW

19 [エリア紹介]
毛呂山町　緑とふれあいの文化都市
坂戸市　「坂戸よさこい」にお越しください！
東武線沿線情報　「小江戸川越」散策

[城西歳時記]
2012年6～9月：城西大学の主な行事予定

題字：創立者　水田三喜男 先生

今号の表紙

雲一つない晴天の下、今年度も初々しい若者たちが入学式に臨みました。写真後方中央は大学の中枢を担う城西のシンボル、清光会館。国際化・情報化に対応した充実の設備で、学生たちを見守ります。

ニュース

巣立つ城西人、新

2012.3.22
学位記授与式

城西の絆 心のよりどころに

森本学長と卒業生

厳しい寒さがようやく緩み始めた2012年3月22日（木）、平成23年度学位記授与式（及び卒業証書授与式・修了証書授与式）が、坂戸キャンパス総合体育館でとり行われました。この日、城西を巣立った卒業生総数は1728名で、創立以来からの卒業者総数は、7万3069名になりました。式典では、学位記や証書が授与されるとともに、学業やスポーツにおいて特に素晴らしい活躍をしてきた学生たちの代表が、特別表彰を受けました。

入学時には初々しかった学生たちも、今やすっかりたくましく成長し、建学の精神である

2012.4.5.
入学式

「新入生は日本と世界の希望」水田理事長

式辞を述べる水田理事長

例年よりも遅い桜の開花が訪れた2012年4月5日（木）、平成24年度入学式が、坂戸キャンパス総合体育館でとり行われました。新たに城西の仲間となった入学者総数は1959名で、卒業式とは対照的にまだ幼さを残した学生たちが、希望といくばくかの不安をまなざしに滲ませながら式に臨みました。

新たな学生やそのご父母に向けて、水田宗子理事長は城西の建学理念をはじめ、中期目標を掲げ地域や社会と共に歩む城西の姿を紹介すると共に、「新入生の皆さんは日本そして世界の希望です。皆さんには今日から城西人とし

しい城西人

今年の春もまた、城西大学は仲間を送り出し、
そして新しい仲間を迎えました。
3月にとり行われた卒業式と、4月の入学式の様子をご紹介します。

「学問による人間形成」を心に刻みつつ卒業の場に臨みました。そんな彼らに向けて、水田宗子理事長や森本雍憲学長、そして来賓の伊利仁・坂戸市長（当時）と佐藤鉄也・城西大学同窓会会長（当時）をはじめ多くの関係者から、あたたかい励ましの言葉がかけられました。理事長の式辞では、城西大学が地域や世界と連携しながら高度な教育を展開し、また地域・社会の皆様のお力添えがあって学生を慈しみ育ててこられたこと、そして2015年の50周年を一つの目標とした城西の中長期目標J-ヴィジョンにより、城西大学がさらなる発展を目指していることなども語られました。

学生たちには卒業後も、城西大学との確かな絆の存在を感じながら、城西を誇りに思い心のよりどころとしてくれることを願っています。そして夢や志をもって日本や世界で活躍する彼らを、城西大学の関係者一同はこれからも見守っていきます。

式典の当日には「東日本大震災復興支援バザー」も開催されました。集まった支援金は、被災地支援に充てられます。

て、学ぶ事とは何かを考え学ぶことの核心に触れてほしい、そして自分を鍛え自分を見つめるというプロセスを通じて、自分の将来について考えてほしい」と励ましました。森本雍憲学長も、城西で学んでほしい事や、城西大学には学生を支援する教職員がいて恵まれた環境がある事など、そして「城西で人生を切り開いていける糸口を各人が見出してほしい」と学生たちに伝えました。また来賓の伊利仁・坂戸市長（当時）と江口輝章・父母後援会会長（当時）をはじめ多くの関係者からあたたかいメッセージをもらいました。

新入生たちが城西を巣立つ日まで、城西大学の関係者一同は彼らの成長を支えていくと共に、彼らがこの土地や大学を愛する心を育めるように、誠意をもって見守っていきます。

式典の当日には、ハンガリー文化センターとの共催にて「大震災復興祈念コンサート」も行われ、ハンガリーのヴェドレシュ・チャバ氏の作曲による美しい調べの中、参加者は追悼と復興への希望を分かち合いました。

特集1 薬学部3学科共通特別講演「患者の気持ち」

社会の要請に応える、新たな薬学教育

グループディスカッションする薬学部の学生

薬学部では1年生を対象に、薬学科・薬科学科・医療栄養学科の3学科共通で特別講演を行っています。薬学を学ぶ姿勢や、将来にわたって重要になる「患者の気持ちを理解する」視点を学生に得てもらうためで、2006年度より始まり年1回実施しています。講演後には、学生たちが学科を横断して4～5人のグループをつくり、ディスカッションとその内容発表を行います。

2011年度の特別講演から約半年を経た2012年4月末、授業を担当した薬学科の上田秀雄准教授と井上裕准教授、薬科学科の杉田義昭教授（2011年当時は医療栄養学科）と古旗賢二准教授、授業を受けた各学科の学生、の計7人から話を聞きました。各先生からは授業概要とその意義や成果を、学生たちには考えさせられた事、将来の夢などについて語ってもらいました。

担当者解説　上田秀雄 准教授（薬学科）

薬学部の学びにおける、授業の位置付け

生活者に寄り添える専門家を育成

これからの社会において薬学分野に求められるのは、サイエンスの知識と生活者の視点を持ち、健康と豊かな生活の安全をサポートできる専門家の育成だと、城西大学では考えています。そこで薬学部の中に、医療において“薬”を使うことを学ぶ薬学科（薬剤師養成課程）、化粧品や食品・医薬品の研究開発に携わる薬科学技術者を養成する薬科学科、“食”を使うことを学ぶ医療栄養学科（管理栄養士養成課程）を置き、この3学科が連携して新しい薬学教育と薬学研究を社会に提案しています。

そして、医療の現場や食品・化粧品・医薬品開発などの分野において「生活者・患者中心」の考え方が更に進んできている中、これまで以上に生活者に寄り添える医療～薬学分野の専門家を育てるため、新たな教育方法を導入しました。従来の座学や実験などに加え「学生中心型教育」の一つとして、医療や健康の根幹的な意味を問い直し、またさまざまな課題に向き合えるコミュニケーション能力を養う実践的なスタイルの学びとなる、全学科での特別講演とディスカッションを2006年度から始めたのです。

この授業を通して学生たちは1年次のうちに、患者や医者など異なる立場の人の考えに直に触れる事ができます。また学科を越えてのディスカッションは立場の異なる者同士が相互理解し連携して物事を進めていく事を体験できます。今後プロフェッショナルとして自立していく学生たちにとって、大切な学びと言えます。

2011年度、実施の現場から

不安、喜び――癌患者の声を直に

2011年11月9日、薬学部3学科の1年生全員を対象に、特別講演「患者の気持ち」と「医療の場で働くプロフェッショナルとして大切なこと」をテーマにスモールグループディスカッションを行いました。第1部は、20年以上にわたり治療を続けている癌患者の講演です。最初に癌が見つかった時の衝撃、手術による病巣の切除とその後の再発への不安、そして実際に再発に至るまでの経過や心情が淡々と語られました。一方では再発の不安を抱えながらも、家族や会社の同僚たちの支えや主治医との信頼関係のおかげで定年まで仕事を続ける事ができた喜びにも触れ、周囲と患者との相互関係の大切さも語られました。また長い闘病生活では患者が代替医療や統合医療を必要とする場面も多く、それらの医療を安心して受けられる環境やシステム作りへの期待も述べられました。

講演後、学生からの質問に答える患者さん

難しいテーマ　その場で挑む

第2部は、学生が講演の内容から感じ取った思いをもとに話し合うグループディスカッションとその発表です。医療の場で働くプロフェッショナルとして何が大切なのか――1年生にとってはまだ難しいテーマながら、学生たちはグループとしての考えをその場で懸命にまとめあげ、各グループが「医療従事者の言葉が、患者に希望も不安も与えてしまうことに留意」「環境づくりやコミュニケーション形成によって、患者との距離を縮めることが大切」「代替医療への理解をもっと深める」「患者の体力や気力の充実には、食事療法のあり方も大切」など発表し、互いの意見を確認しあいました。

プロ　知識以外に“内面”も必要

第3部は、治療する立場から、昭和大学横浜市北部病院の中島宏昭先生の講演です。まず、学生たちの発表の素晴らしさを指

摘し、自分の能力を信じてこれからの“学び”に活かしてほしいと述べられました。プロフェッショナルには専門的な知識や技能に加え、態度や人生観などの内面も必要です。それらを身につけたプロフェッショナルが患者に寄り添いながら連携する事が、チーム医療の本質ではないかと説かれました。更に医療人として必ず対峙する課題――生命倫理に関わる事も語られました。人間の生と死は、生物学的な面からのみならず、法的な定義、宗教的な観点や個人の価値観など、さまざまな視点で考えなければなりません。人は生まれた瞬間から死へと向かい始めますが、その中で私たちはどう生きるべきか。先生は万人に共通する人生の目的には、①自分の潜在能力を引き出す事、②他人と好ましい関係をつくる事、③他人の人生に意味ある貢献をする事、という少なくとも三つがある事を提示し、患者と生き方を分かち合える医療人として早く現場に出てきてほしいという期待を込めて、講演を終えました。

「参加型授業」より充実を

医療や薬学の知識に詳しいのみならず、生活者視点を理解し、地域医療の現場で能力を発揮できるプロフェッショナルの養成に更に尽力する事が、薬学部の目標の一つです。学生たちの“人の意見を聞く、自分の意見を言う、そして論理的に物事を捉え考えを組み立てていく”という能力を更に高めるため、今後はディベートを取り入れた「参加型授業」をより充実させていきます。また総合大学のメリットも活かし、他学部と連携し授業構築などもできればと考えています。

担当者コメント　杉田義昭 教授（薬科学科）

3学科混合で意見交換の場
患者さんを思える医療人へ

本授業は将来、薬剤師、管理栄養士、薬科学技術者としてそれぞれ医療に携わる学生が同じ空間で、患者さんの心のケアの大切さや医療従事者の立場などについて個々に考え、それを3学科の学生が混在したグループで意見交換のできる貴重な時間です。授業をとおし、医療に携わる者としての責任やコミュニケーション能力の大切さ、医療チームのメンバーが患者さんを考える事の重要性を感じ、患者さんを心から思う事のできる医療人になろうという、モチベーションが芽生えてくれることを期待しています。

（左から）井上、上田、古旗准教授、杉田教授

学生インタビュー

日常生活の中で信頼される薬剤師に

篠原 美咲さん（薬学科２年）

授業当時、患者さんの話を聞いた直後に皆でディスカッションする事により理解が深まりました。また中島先生からは、患者との信頼関係がつくれる人が本当のプロフェッショナルだと教えてもらいました。私は薬剤師を目指しています。兄弟が多く家族が互いを思いやる家庭で育ったので、その経験も活かし「人の役に立つ仕事」がしたいのです。自分のエゴにならず相手が本当に求めている事に応えられ、日常生活の中で話を聞き精神的な支えになれる薬局の薬剤師になれるよう、専門の薬の事はもちろん色々な知識も身につけていきたいと思います。

人に優しい薬づくりを

元木 杏さん（薬科学科２年）

グループディスカッションでは、まず相手から話をひき出す難しさを痛感。このようなやり取りをもっと体験すれば、チームをまとめていく力が身につくのではと感じました。講演では患者さんが、薬が劇薬に見え恐かったと言っていたのを強く覚えています。私は患者さんも含め、人々がより幸せになる事を手伝えるような仕事に就きたいのです。例えば、効能に加えさまざまな視点から人に優しい薬や、体に良い新たな食品や化粧品などを創り出していける研究職。ヘルスケア・アドバイザー等にも興味があるので、今は良く学び情報を集め、可能性を模索していきます。

スポーツ分野で専門を活かしたい

小川 直人さん（医療栄養学科２年）

患者さん、中島先生どちらも真剣に語ってくれたので、僕も心を引き締めて聞きました。そして命の重みについてもっと懸命に考えなければと思いました。僕はスポーツ栄養士になりたいと考えています。子供の健康な体づくりやアスリートには健全な食事や栄養が大切。だから「食と医療」を併せて学べるこの学科を選びました。資格を取るのは非常に難しいのですが、スポーツその他色々な知識も学び、この目標に向かっていきます。またスポーツに関わるさまざまな人たちとチームをつくり、新しいビジネスができたら面白いのではとも考えています。

休耕地活用プロジェクト　現代政策学部・石井ゼミ

畑から地域を元気に――学生のカレーづくり

「情熱カレー」を手に石井雅章准教授（左）とゼミ生の奥原太思さん

現代政策学部の石井雅章准教授のゼミでは、2009年より休耕地を活用したプロジェクトを展開しています。これは学生たちの総合的な能力を鍛える「課題解決型学習」であり、大学の地域貢献・産学連携活動でもあります。プロジェクトの一つである「情熱カレー」について、石井准教授に聞きました。

地域の農業・健康、震災を支援

城西大学がある埼玉県坂戸市は“「葉酸」のまち”として知られています。石井ゼミでも、休耕地活用プロジェクトの一つとして、葉酸を多く含むほうれん草や小松菜の栽培に取り組んできました。坂戸市健康政策課と地元企業の日本薬膳株式会社と連携してこれらの野菜を原料にレトルトカレーを開発することが決まり、2011年に「情熱カレー」づくりのプロジェクトがスタートしました。

「情熱カレー」のコンセプトは、「地域の農業支援」「市民の健康支援」「震災復興支援」の三つ。地域の農業支援には、休耕地で栽培した野菜を原料とすること、地元農家が栽培したものを購入することが含まれます。健康支援は、葉酸をたくさん含み約50種のスパイスが入った「薬膳カレー」で、100㌘当たり約79㌔㌍と低カロリーなことです。震災復興支援としては、被災地に1食当り20円を寄付することを決めました。

夏休み返上で野菜と格闘

完成までの道のりは平坦ではありませんでした。プロジェクトのスタートが、ほうれん草と小松菜の栽培には暑すぎる初夏の頃。無理を承知で地域の農家に協力いただき、学生たちの栽培と併せ必要量を確保。製造工場へ出荷する前の洗浄・カット作業では、学生たちが夏休み返上で野菜と格闘しました。完成した「情熱カレー」は、昨年11月の高麗祭に出店し、3日間で約700食を売り上げました。そして2012年春から、第2弾の企画・開発・製造に入ります。商標登録の兼ね合いがあり、商品名も「情熱カレー」ではなく新しい名前になります。

「地域ブランド」仕組みを展開

大学名が入った製品は、近年さほど珍しくありません。しかし、この「情熱カレー」は“学生が畑から作った”というキャッチフレーズからも分るように、畑を耕すところから製品のパッケージ作りまで、学生たちが全ての段階に主体的に関わっているのです。ただ休耕地を活用するのではなく、休耕地活用の仕組みそのものを作ったのです。今後はこの「情熱カレー」の仕組みを広く展開させて、地域農業の活性化につなげていきたいと考えています。

全国で増える休耕地

経済性の低さなどから農業の担い手が減少する中、休耕地は近年急増。全国に埼玉県と同程度の面積が存在するといわれています。休耕地の増加は、食料自給率の低下、農業を通じて伝承されてきた知的資源の断絶などの問題を引き起こしています。

学生インタビュー

次世代の「食と農」に取り組みたい

奥原 太思さん（現代政策学部4年）

石井ゼミの奥原太思さんは、「情熱カレー」メンバーのリーダーです。長野県出身で、実り豊かな田畑を身近に育ったため、大学周辺の休耕地に衝撃を受けました。“食”にも興味があり、休耕地を活かし作物を実らせたいと、プロジェクトに取り組んできました。苦難の末に商品ができた時の喜びはひとしお。たくさんの知人に試食してもらい、意見は次の企画に活かすとのこと。そして商品の流通やブランド力向上などにも、更に取り組んでいきたいとのことです。将来は「子供たちに食の大切さを教えられる、次世代に向けた“食育”に関わる仕事がしたい」と、力強く志を語ってくれました。

英語スピーチコンテスト　語学教育センター

多彩な交流を育む学びの場に

石川正子准教授（右）と金語婷さん

語学教育センターは2011年、日頃の学習成果を発揮する場として「第1回・城西大学英語スピーチコンテスト」を開催。第1回目ながらさまざまな成果の出たコンテストとなりました。英語教育の場として、日常の問題を学生や教職員が共に考える機会として、さらには新たな目的に向けて活動を発展させる契機ともなりました。語学教育センターの石川正子准教授に話を聞きました。

大学を越え親睦深まる

2011年10月29日、第1回城西大学英語スピーチコンテストが開催されました。学内外からの52名の応募者の中から書類選考の末、7名の大学生（城西大学より5名）と7名の高校生の計14名が本選に参加し、高校生は「My dream」、大学生は各自の選んだテーマでスピーチを披露しました。

第１回 城西大学英語スピーチコンテスト出場者全員と語学センター教員

最優秀の「城西大学理事長賞」は、祖父の入院を通してどんな薬よりも家族のお見舞いが「世界最高の薬」であると訴えた、国際基督教大学の鹿山ゆかりさんが受賞しました。城西大学現代政策学部3年（当時）の留学生、金語婷さんは「埼玉県教育委員会賞」を受賞。「国際ボランティア」と題して母国中国で経験したボランティア活動と現在の日本留学を通して、広く世界に貢献できる人材になりたいと熱弁をふるい、評価されました。コンテスト終了後、参加者たちは互いの健闘を称え親睦を深めました。

金さん（城西大・現代政策）と鹿山さん（国際基督教大）意気投合し新たなコンテスト出場

このコンテストで鹿山さんと金さんはすっかり意気投合、2人で新たなコンテスト出場を目指すこととなりました。

金さん（左）と鹿山さん（右）。森田杯の審査員とともに

選んだのは、京都外国語大学英米語学科主催の「第5回森田杯・英文毎日杯／ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」。全国57組（114名）の応募者の中から2回の審査を通過し、2011年12月17日の本選出場を果たしました。

当日は選抜された10組（20名）が各自の選んだ日本文化について、実物や写真を提示しながら発表し、審査員の質問にその場で答える形式でコンテストが行われました。10組中唯一、違う大学の組み合わせで参加した2人は即席ペアではありましたが、「日本の新年の過ごし方・迎え方を見てみよう!」と題して発表しました。残念ながら結果は4位でしたが、非常に僅差であったため、3位のペアの後に次点として壇上で表彰されました。

金さんにとっては日本文化を学ぶ絶好の機会にもなったことでしょう。城西大学のコンテストが、参加者や観客の生活にも刺激と影響を与える役割を果たしたこと、異なる大学同士の2人が絆を結び、新たなコンテストを目指すという発展があったことに、大きな喜びを感じています。

学生インタビュー

人と人との豊かな交流を支えていきたい

金 語婷さん（現代政策学部4年）

7歳から英語を習い始めた金語婷さん。中国の大連外国語学院で英語と日本語を学んでいましたが、ボランティアで知り合ったアメリカ人学生に「若いうちに色々な所に行き新しい発見を」と言われ、日本留学を決意しました。城西大学の英語コンテストで知り合った鹿山さんと共に、ペア出場という珍しい英語コンテストに挑戦。異なる大学に通う中、僅かな準備期間にスケジュールを合わせ練習に励みました。「日本の正月」を日本人にどう説明するか悩みましたが、石川先生や周囲の人々に支えられ乗り切りました。今回、金さんは国や大学を越えた友情や学内の先生との絆など、多くの糧を得ました。将来は国際交流や貿易など、国や人をつなぐ仕事に就きたいと語ってくれました。

連載 城西の未来創り 中期目標と維持協力会

城西大学の中期目標J－ヴィジョンに基く事業、50周年に向けた事業と維持協力会の活動などについて、その内容や進捗状況をご紹介します。

学校法人城西大学　中期目標（2011～2015）

日本、アジア、そして世界のリーディング・ユニバーシティへ

≪7つの J-Vision≫

学校法人城西大学は、1965年の創立時より掲げてきた建学理念に基づいた教育を実践し、グローバルな知性を備え実社会に貢献できる人材を世に送り続け、活躍する卒業生は9万人を超えました。そして今、社会や時代の新たな要請に応えるべく、建学理念の現代的意味を改めて確認し、新たな時代に向け中期目標を策定しました。2015年に迎える創立50周年に向け、本学は更なる発展を目指します。

＜建学の精神＞
『学問による人間形成』

＜大学の理念＞
「社会の発展に必要とされる人材を育成することによって、人類の福祉に貢献すること」

普遍的な指針とすると同時に、現代的意味に改めて解釈し、
新たな時代に向けた大学の将来像を策定

＜ミッション・ステートメント＞
地球規模の課題や国内の様々な問題が山積する中で、新たな価値観を生み出すイノベーションが求められている。そうした中、幅広い教養と深い専門性を身につけ、諸課題を総合的に探究・解決し、積極的に社会に関わることができる人材、そして国際的にも通用する人材の育成を目指す。

学校法人城西大学　中期目標（2011～2015）

日本、アジア、そして世界のリーディング・ユニバーシティへ

7つの J-Vision

1. 豊かな人間性の涵養と社会に有為な人材育成
2. 国際性、専門性を備え、日本文化を身につけたグローバル人材の育成
3. 教育力の継続的向上と地域・世界と直結した連携教育の強化
4. 研究力強化とイノベーションの推進
5. キャンパス環境の充実とグローバル化・ネットワーク化
6. 教育、研究、社会貢献のダイナミックな展開を支える経営基盤の確立
7. 発信力強化と社会的存在価値のさらなる向上

中期目標≪7つのJ-Vision≫を掲げ、「オール城西（ All Josai ）」の力を更に強めていきます。
城西の“J”は、日本（JAPAN）の“J”、そして参加と飛躍（JOIN&JUMP）の “J”でもあるのです。

リーディング・ユニバーシティを目指すための《 7 つの J-Vision 》詳細

理事長メッセージ

学校法人城西大学は飛躍の年を迎えました。城西国際大学は2011年4月に創立20周年を迎え、城西大学は創立50周年に向かって新たなスタートを切りました。2011年に両大学の委員会を作り、中期目標《J-Vision》を定め、そのテーマを「日本、アジアそして世界のリーディング・ユニバーシティへ」としました。

今日、大学はグローバル化し、国際的に活躍する人材の育成が求められています。本学の建学の精神である「学問による人間形成」を出発点とし、中期目標である《J-Vision》を達成することを通じて、世界で活躍できる優秀な人材の育成をめざしたいと思います。

中期目標《 7つのJ-Vision 》の詳細

Vision 1
豊かな人間性の涵養と社会に有為な人材育成

本学を特色づける道徳観を育むためのリベラルアーツ教育の構築、社会人基礎力に資するキャリア教育、学際的あるいは新領域における人材育成、専門性の高い職業人の育成、文化・スポーツ等課外活動による人間力の育成を通じて、豊かな人間性の涵養と社会に有為な人材育成を目ざす。

Vision 2
国際性、専門性を備え、日本文化を身につけたグローバル人材の育成

語学教育の強化徹底、異文化理解のための教育・体験、日本文化理解のための教育・体験、国際交流の拡大・充実、国際的女性リーダー育成、留学生教育・支援の充実、国際化を支える人的基盤の強化により、国際性と日本文化理解を重視したグローバル人材の育成を目ざす。

Vision 3
教育力の持続的向上と地域・世界と直結した連携教育の強化

FD・評価・顕彰等による教育力・指導力強化、プログラムの企画を含む組織的教育力の強化により教育の持続的向上を推進するとともに企業・地域・他大学・海外協定校等との連携による教育内容の充実を目ざす。

Vision 4
研究力強化とイノベーションの推進

教育の基盤となる研究力の強化、本学を特色づける研究領域の確立を目ざし、グループ・プロジェクト研究の推進、競争的資金の獲得強化、研究成果の発表等、イノベーションを通して社会的成果が見えることを目的とする。

日本、アジア、そして世界の
リーディング・ユニバーシティへ

7つの J-Vision

Vision 5
キャンパス環境の充実とグローバル化・ネットワーク化

学生、教職員が健康で、安心して学び、仕事ができる安全な環境、情報通信技術の高度利用、環境に配慮した社会・地域に開かれたキャンパスの実現に向けた整備を進めるとともに、東京・埼玉・千葉・海外と多拠点ネットワークを構築する。

Vision 6
教育、研究、社会貢献のダイナミックな展開を支える経営基盤の確立

授業料収入の確保と外部資金・寄付金の増加による財務基盤の強化、教学・経営を支える組織整備、適正性・効率性の担保に資する業務システム、職員の戦略的配置・育成等により、ダイナミックな展開を支える経営基盤を確立する。

Vision 7
発信力強化と社会的存在価値のさらなる向上

教育研究活動成果の可視化と多様なチャネルによる発信強化、本学の特色を活かした広報・ブランド戦略、同窓会・父母後援会との連携強化、社会・地域との交流・貢献、国際交流・貢献の推進等を通して社会的存在価値のさらなる向上を目ざす。

中期目標《 J-Vision 》詳細は、以下のサイトをご覧ください。

http://www.josai.jp/about/medium_target/index.html

城西の未来創り 中期目標と維持協力会

JOSAI 20/50 ANNIVERSARY

学校法人城西大学　維持協力会 Q&A

学校法人城西大学維持協力会は、「学問による人間形成」という建学の精神にもとづく本学の教育活動を支える財政基盤の強化を目的として2007年11月に発足し、奨学金制度の充実と経営基盤の強化などを目的とする基金の構築を進めて参りました。これまでのご支援に感謝申し上げます。

維持協力会の活動に関して、よくあるご質問にお答えしつつ、維持協力会の内容や周年事業との関わりなどについて、Q&A形式にてご紹介します。

Q 活動の趣旨は何ですか？

A 城西大学・城西国際大学・城西短期大学での教育活動をさらに強化し、推進するための奨学基金の構築や記念事業への参画、研究・文化・スポーツ振興、国際交流、地域社会への貢献などを財政面から支えることです。

Q 大学は学費収入だけでは運営できないのでしょうか。

A 学納金だけでは十分な発展が期待できない時代になっています。学納金、政府からの助成金に加え、大学が独自で集める外部資金の獲得が、大学の維持発展の重要な要素だといわれています。

Q 「外部資金」とはどのようなものでしょうか？

A 同窓生、ご父母、教職員、そして本学の教育理念に賛同される個人・法人の篤志家の皆様による寄付金が、これにあたります。ご寄付を通じて、建学の精神である「学問による人間形成」を本学の伝統として教育に活かし続ける事業に、参画していただきます。この他、「競争的研究資金」の獲得や、産学官の連携によってもたらされる教育・研究費も、外部資金にあたります。

Q 同窓会、父母後援会との違いは何ですか？

A 維持協力会は、学校法人城西大学の内部に設けられています。一方、同窓会、父母後援会は、大学と連携した外郭団体にあたります。

Q 維持協力会はどのように運営されているのですか？

A 運営委員会と事務局により構成されています。運営委員会では会長の他、学校法人城西大学理事長、常務理事に城西大学・城西国際大学の両学長、法人事務局長などの常任委員会と、両大学同窓会長、父母後援会長、両大学副学長、事務局長などを含む運営委員とが、活動計画と寄付金の使途を協議します。

Q 集まった寄付金の使途は？

A 2007年11月の発足時より、基金の構築を中心に進めてきました。現在、約3億2千万円の寄付金が寄せられています。本年度（2012年）の城西国際大学創立20周年記念事業の一環として計画された、東金キャンパスにおけるサッカー場の建設による地域・スポーツ振興プロジェクトに参画するのを皮切りに、2015年に建学50周年を迎える城西大学、学校法人城西大学の記念事業への参加を目的とする、拠金および特別募金活動を展開する予定です。

学校法人城西大学 維持協力会 入会のご案内

学校法人城西大学は2015年に創立50周年を迎えます。維持協力会では2012年度より『周年記念事業と連動した募金活動』を開始します。また、本学における教育・研究・スポーツ・文化の振興や、社会貢献・国際交流への助成を目的として、『使途を特定した寄付金』の募集なども企画しております。活動報告、募金計画のお知らせに関しましてはメルマガ、ホームページなどを通じ、ご案内していきます。

皆様におかれましては、維持協力会の意とするところをお酌取りいただき、ご入会をご検討いただければ幸甚に存じます。入会申し込み方法その他、内容などに関しては以下に問い合わせください。

●問い合わせ・申し込み先

学校法人城西大学維持協力会
事務局
〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町3-26
学校法人城西大学
東京紀尾井町キャンパス2階
TEL：03-6238-1031
（月～金／10～17時）
FAX：03-6238-1029
メールアドレス：josaiiji@josai.ac.jp

連載「高麗川プロジェクト」発展

プロジェクト概要と今後の展開可能性

城西大学では地域と連携してさまざまな活動を行っていますが、その中で城西大学と縁の深い高麗川周辺にて実施している一連の活動が今後、「高麗川プロジェクト」として更に大きな展開を見せようとしています。プロジェクトの概要や進捗状況などについて、副学長の草野素雄教授から話を聞きました。

「冬の花火」撮影風景

米の栽培（被災者支援米）

「高麗川プロジェクト」は、城西大学の至近にある高麗川に関わる、城西大学と坂戸市など周辺地域との共同プロジェクトの総称で、これまで、以下のような活動を行ってきました。

❶2007年から毎年、経営学部の「まちづくり」という科目の履修学生を中心に、大学周辺でクリーンキャンペーンを実施。

❷2006年にスタートした坂戸市主催の「清流高麗川ウオーキング」（北坂戸駅近くから城西大学までを高麗川に沿って歩くイベント）で、受付と記念品の贈呈を城西大学の女子ソフトボール部、吹奏楽部、経営学部学生有志が手伝い。

❸2009年より高麗川周辺にある休耕地で、現代政策学部の石井准教授を中心に学生がヒマワリや米の栽培などを行ってきたが、薬学部や経営学部にまで活動の輪が広がってきている。

❹2012年初、高麗神社、高麗川、城西大学を舞台に日韓合作映画「冬の花火」という映画を製作。水田宗子理事長が韓国（釜山）の東西大学から名誉博士号授与の際に提案されたプロジェクトで、東西大学の芸術学部と城西国際大学のメディア学部が初めて共同で映画作りを行った。東日本大震災をテーマに家族を失った日本人男性と孤独な韓国人の女子留学生との心の交流を描いたストーリーで、マスコミにも取り上げられた。

2012年以降は「高麗川クリーンキャンペーン」を坂戸市や埼玉県と協働で行い、高麗川の中や流域の清掃活動を実施する予定です。プロジェクトは、大学周辺の高麗川流域の環境美化に取り組み、地域の人々が散策を楽しみ健康増進に寄与できるような遊歩道を造るという規模に発展しつつあります。さらには、周辺の耕作放棄地において城西大学薬学部が中心になり「薬草園」などを造ることなども視野に入れた、壮大なプロジェクトに発展させていく可能性も、検討しているところです。

高麗川「健康ウォーキングイベント」

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえぬ歴史の懐しさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、活き活き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『松本米三郎のけわい坂の少将実はしのぶ』東洲斎写楽

大判錦絵
寛政6(1794)年

寛政6年に桐座で興行された『敵討乗合話(かたきうちのりやいばなし)』に取材した組物6枚の1図。

この絵に登場する役のしのぶは、父の借金の肩代わりに廓に売られ、遊女けわい坂の少将となり父の仇をねらう。懐から手を出して煙管を持つポーズは遊女に特有のもので、やや顎を引きじっと見つめるまなざしに、秘められた決意が表わされている。漆黒の帯には正面摺が施され、光にかざすと入子菱文に鶴丸文や雲文が浮かび上がる、華やかな作品。

松本米三郎は当時の人気若女形だが、写楽が描いた女形の作のうちでは穏やかな描写である。版元の蔦屋重三郎から、突如デビューを果たした、写楽第一期の作品。

江戸時代において煙管は、贅沢禁止や防火の意味から、誰もが持てる道具ではなかった。しかし武士や裕福な商人等は、自分の好みで煙管をあつらえたりしており、一種のステータスシンボルでもあった。また遊女等は、位が上るにつれて広くなる帯に合せて煙管も長くしたため、煙管の長さで女郎の格が分かったともいわれている。

食事設計

～薬学部医療栄養学科より～

薬学部医療栄養学科では、栄養学に裏打ちされた食事設計の重要性を発信していくために、学生たちが考えた料理レシピ集を作成しました。学生たちが授業で学んださまざまな知識を活かし、工夫を凝らして創りだしたおいしい献立をシリーズで紹介していきます。

『コールスロール(サラダ巻)』

「透析患者様向けの持ち運びができるお花見弁当」をテーマに開催された、第2回バイエル・レシピコンテストに学生が応募し準グランプリを獲得したレシピ。食事療法が必要な方が家族と一緒に楽しめるようにとの、学生の思いが込められた作品。

コールスロールのお花見弁当

●作り方

①ご飯を硬めに炊き、酢と砂糖を加えて酢飯にして2等分する。

②具を作る。キャベツ、赤ピーマン、タマネギを粗みじん切りにし、3分ほどゆでてざるにあげ、キッチンペーパーで水気を切る。コーン、マヨネーズ、コショウを加えて混ぜ合わせる。

③卵をフライパンで薄く焼く。

④巻きすにラップを敷き、卵→酢飯(1/2)→のり→具の順にのせて巻き、4等分に切り分ける。

⑤巻きすにラップを敷き、残りの酢飯→のり→具の順にのせて巻き、巻いた酢飯にゴマをつけ4等分にする。

●材料(1人分)

<酢飯> ご飯 180 g、砂糖 5 g、穀物酢 20 g
<具> キャベツ 20 g、赤ピーマン 15 g、タマネギ 5 g、ホールコーン 10 g、マヨネーズ 10g、コショウ少々
<飾り> 焼きのり 2 枚、白ゴマ 1 g、卵 30 g、サラダ油 2 g

●1人分の栄養量

エネルギー	水分	タンパク質	脂質
434kcal	195.3g	9.7g	8.1g
炭水化物	カリウム	リン	食塩
77.5g	202mg	146mg	0.3g

学生コメント

リーダー 田口さん(7期生)

実習で透析について学んだことをきっかけに、研究室のメンバーで参加しました。試行錯誤しながらも最後まであきらめず、一致団結しやり遂げました。また表彰式では、透析の大変さや食事の工夫の仕方、他校の学生さんたちの努力なども分かり、今後の励みとなりました。

*このレシピやレシピ集に関しては、広報センターまでお問い合わせください。
☎ 03-6238-1240
(月～金／10～17時)

JOSAI・JINZAI

創立以来、城西大学は「学問による人間形成」を建学の理念として、多くの人財を社会に送り出してきました。城西大学で〝学び〟、〝教え〟、〝育ち〟、社会貢献への道を日々歩み続けている、在学生や留学生、卒業生、教職員たちをシリーズで紹介していきます。

数学を社会に活かす
～理学部数学科／卒業生と先生～

松原勇介 さん（写真左）
2010 年 3 月、理学部数学科卒業
現在、筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻 在学中

飯田正敏 先生（同右）
理学部数学科教授
専門は解析学・情報、Lie 群の表現論
博士（数理科学）／東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了

数学でつながった先生と教え子――学生の卒業後もその師弟関係は続いています。城西で学んだ事を社会に活かそうと飛び立った卒業生と、学びを通して学生の成長を支える先生を紹介します。

夢の実現に向けて成長中

子供の頃から数学が大好きな松原勇介さんは、理学部数学科を卒業し、現在は筑波大学大学院で勉強中です。城西大学では、やはり学生時代から数学に情熱を燃やし続ける、飯田正敏教授のゼミに所属していました。飯田先生の解説は丁寧で分かりやすく、またロジカルな頭脳を持ちながらも気さくな人柄とも相まって、ゼミ室はいつも質問したい学生の行列でにぎわっています。

仲間たちと日々数学に明け暮れていた松原さんですが、将来は数学そのものというよりは、数学や数学によって磨いた論理的な思考力を活かして、実社会に即したビジネスに携わりたいと考え、経営工学を学べる大学院への進学を決意しました。目標実現のためには運に頼らず積極的に前向きに行動!と、しっかり準備し、飯田先生からの親身なアドバイスも活かして、見事に志望校に合格。新しい環境で更にいろいろな人と出会い、刺激を受ける日々の中で、一段とアグレッシブに自分を成長させています。

大手通信会社への就職も内定した松原さんから、後輩に向けたエールをもらいました。

「自分の目標や好きなことを一つで良いから見つけて、熱中してみて。そして大学や先生たちをどんどん活用してください。城西には親身に学生を助けてくれる先生が大勢います」

志を持ち日本で学ぶ
～現代政策学部／留学生～

城西大学は国際交流が盛んで、多くの留学生を積極的に受け入れています。今回は、中国・大連の大連外国語学院から来日した2人の女子学生に、日本留学への思いを語ってもらいました。

日本と中国のかけ橋になるために
王玉玨さん（現代政策学部4年）

大連で日本語を勉強し始めてすぐに、「中国と日本は一衣帯水の隣国なのに、なぜ言葉は全然違うのか?」という疑問が湧きました。そして、次第に「旅行でも留学でもいいから日本に行きたい!」という思いが募りました。その時です!　城西大学に編入できることとなりました。日本に来てから、生活面や学習面でいろいろな問題もありました、いつも大学の先生方や友人たちに多くのことを教えてもらい、励まされました。

資料館を見学する、王玉玨さん（左）と張夢堯さん

私の将来の目標は、日中貿易に関する仕事に就くことです。日本と中国のかけ橋となり、良いものをお互いに共有することができればと考えています。しかし、まだまだ能力や知識が不足しているので、これからもっと勉強して、社会経験を積んでいきます。今日は昨日より一歩でも進歩すれば良いと思っています。たった一度の人生です。皆さん、一緒に楽しみましょう!

インターンシップで知見広がる
張夢堯さん（現代政策学部4年）

大連で日本語と日本の文化や社会を学ぶうちに、「日本で生活してみたい」と思い留学を決意しました。日本に到着し、生活用品のそろった住居にも入れて、私の夢のような留学生活は始まりました。まず専門分野を学ぶ前に「日本語特別演習」という授業で、日本語と日本の歴史・法律・生活習慣・地域文化を学び、言葉も自然と身に着きました。

先生に助けられインターンシップの機会も持ちました。新聞社や広告会社を訪れ、学生編集会議に参加し、東京の街や博物館も見学しました。この体験を通して、日本人の友人がたくさんでき、先生と親睦を深められ、自分の知見を広げられたことは、私の財産です。日本で学びたいことがまだたくさんあるので、大学院進学を考えています。

ニュース

城西人の活躍現場から

各学部やクラブなどから、活動をご紹介します。

男子駅伝部　小学校持久走大会のお手伝い　2011.11.25

児童の横を伴走「来年も来てね」

2011年11月25日、前年に引き続き、埼玉県比企郡小川町立八和田小学校の持久走大会のお手伝いへ、経営学部3年（当時）の男子駅伝部員3名が行きました。

当日は、開会式で校長先生のあいさつの後、駅伝部員の渡邊数麻さん（東京農業大学第三高出身）、長谷川剛士さん（埼玉県立春日部東高出身）、國實大夢さん（倉敷高出身）が自己紹介しました。その後、3名の駅伝部員の指導で準備運動が行われ、持久走大会が始まりました。稲刈りが終わった長閑な田園地帯のコースを、9時55分に3年生（1,200㍍）がスタートし、続いて10時10分に4年生（1,500㍍）、10時25分に1年生(800㍍)、10時35分に2年生（900㍍）、10時45分に5年生（1,700㍍）、そして、11時に6年生（1,900㍍）がスタートしました。駅伝部員は、それぞれ自分が担当する学年の先頭の児童の横を伴走しました。

大会終了後、小学校のグラウンドで行われた閉会式で、各学年上位の児童が表彰され、城西大学から用意した賞品が駅伝部学生より渡されました。表彰者を代表して、6年生の男女各1名より感想が述べられ、駅伝部学生からは、本日の感想と共に箱根駅伝応援のお願いをしました。その後、6年生の児童代表よりお礼の言葉があり、校長の話で閉会式が終了しました。

男子駅伝部員がともに走り、大会を盛り上げた

閉会式終了後、整列した駅伝部員の前では、「ありがとう」「来年も来てね」「カッコ良かった」など、お礼や握手をする小学生の行列が自然とでき、学生たちは、期待していた以上の「ご褒美」を体感しました。小学生の素直さや純粋さと、何事にもひたむきに取り組む姿勢から、自身の競技生活へ取り組む気持ちを新たにし、また今回のお手伝いで支援される側から支援する側に立つことにより今まで支えてくれた人の気持ちを再認識し、感謝の気持ちや温かい気持ちを抱いた事が、3名の表情から読み取れました。

後日、校長先生より「持久走大会では大変お世話になりました。駅伝部の学生諸君の伴走で、子どもも普段の練習以上に気持ちが入っていた様子でした。大会を盛り上げていただいた学生諸君に改めてお礼を申し上げます。箱根駅伝での貴校駅伝部の活躍をご祈念いたします」とのお礼メールを頂きました。

経営学部　クリーンキャンペーン実施　2011.12.14

ゴミ拾いで「まちづくり」学ぶ

2011年12月14日、東武東上線坂戸駅から坂戸市役所までの区間で、経営学部プロジェクト研究科目の一つである「まちづくりⅡ」（後期科目・1年次配当科目／担当教員　草野素雄教授／履修者数354名）を履修する学生たちが「クリーンキャンペーン」を実施しました。

「まちづくりⅡ」の授業の方法は、講義でまちづくりの理論を学ぶだけではなく、まちづくりの実際を体験し、将来のキャリア形成につなげることを目標に街に出て実践的学習をする、フィールドスタディーに重点を置いた内容になっています。

後期の授業で、「震災復興プロジェクト」「香川県丸亀町の商店街再開発」などの事例を学んだ学生たちが、地元商店街活性化プロジェクトに参画した後、坂戸市役所の協力の下、授業で指定された三つのコースの担当ルートを、ゴミを集めながら進みました。市民から「何をしているの?」との質問を受けた学生は、「坂戸クリーンキャンペーンです」と堂々と返答。多くの方から「ありがとう」の労いの言葉も頂きました。

ゴールの市役所に到着すると、市役所職員の協力により、ゴミの計量と分別が行われました。続々と到着する学生たちの手にある収集袋の中には、途中で拾い集められたゴミでいっぱいになっているものや、「どこにそれが落ちていたの?」と市役所職員が驚いてしまうものもありました。

坂戸駅前でゴミを拾う学生たち

最後に、集合した学生たちへ坂戸市長より、今回のクリーンキャンペーンのお礼の言葉を頂きました。

ゴミ拾いなどはささいなことではあるものの、理解はしているものの行動に移せなかった学生たちも、今回のクリーンキャンペーンでの経験から学んだ体験が、今後の社会生活に活かせることを期待します。1人では本当に小さな事ですが、一つの目標に向かい協力して多数の者が行動に移せば大きな力になり、それが地域に対して実施されれば、いつも生活している地域に貢献できる喜びを学んだ学生も多いはずです。今回の行事に協力して頂いた坂戸市役所等関係者の皆様に心より感謝致します。

経済学部　就職活動体験発表会　2011.10.7〜11.25

就職不安軽減に成果　関心高く

経済学部では学部就職支援委員会を中心に、経済学部内定者（4年生）の就職活動体験発表会を計画し、2回に分けて実施しました。第1回目は2011年10月7日（金）に内定者8名と教員3名、第2回目は11月25日（金）に内定者5名と教員3名の参加で、実施しました。

2011年度の就職活動は、例年より2ヶ月も遅いスタートとなりました。経団連が、就職活動が学業の妨げにならないようにと、会社説明会など採用活動に関する広報を12月からとしたためです。学生たちも厳しい就職状況を理解しているものの、どう動いたらよいのか分からないでいる中で、その不安を少しでも取り除くためにも、早めに内定者の体験発表会を実施しました。

2回とも多数の学生が熱心に参加しましたが、参加しなかった学生のために、発表会の発言内容を文書化して、経済学部のゼミ生（3年生）全員に配りました。発表会には安田学部長と浦上学科主任も参加し、2回とも内定者（学生）に教員を加えた、パネルディスカッション形式で進行しました。

内定者の体験談は、活動内容での工夫や失敗を交えた理路整然とした話で自信に満ちており、就職活動を通じて人間的にも一回りも大きくなったように感じられました。特に印象に残ったのは、就職活動は学生というスタンスでなく、社会人（ゼロ年生）の気構えで取り組むことが大事との発表でした。

就職活動の内容を語る内定者たち

参加者の感想には

●自己分析は早めに行い、自分自身を知ることが大事と感じた。

●就職活動を行う際に気をつける事と、資格取得についての話が参考になった。

●実際に就職活動してきた先輩の話は、大変さがリアルに伝わってきた。

●「やってやろうじゃないか」と思えるようになり、希望が湧いてきた。

などがありました（アンケート結果より抜粋）。

今後もこのような機会を設けてほしいとの意見も多数ありました。また、参加者は3年生がほとんどでしたが1年生も数人おり、就職に対する関心の高さがうかがえました。

短期大学　ホテル・販売インターンシップ体験授業　2011.10

初めての接客で喜び実感

城西短期大学では、平成23年度新設科目として、「ホテルインターンシップ」選択科目と「販売インターシップ」選択科目を設置しました。ホテル接客業務と販売接客業務という文字通り、ホテルでのインターンシップと販売業でのインターンシップに視点をおいたユニークな科目です。4月の履修申請時には10数名の学生から申請があり、担当教員はうれしい悲鳴をあげました。派遣先は、埼玉県坂戸市にある「坂戸グランドホテル」と首都圏最大規模のスポーツ用品等を販売する「ヴィクトリア」になりました。

以下、「ヴィクトリア」のインターンシップに参加した学生からの声です。

「4日間、インターンシップを経験しました。スポーツ用品店などでアルバイトをしたことがなく緊張しましたが、お店の人たちがとても良い人たちだったので、仕事は大変でも楽しく実習することができました。

インターンシップ1日目は、研修とシューズフロアでの声出しでした。最初はなかなかうまくできませんでしたが、だんだん声が出るようになりました。2日目、私はテニスのフロアでの接客、品出し、在庫の整理などを行いました。立ち仕事も大変でしたが、接客も初めての経験で、フロアのスタッフの人に聞きながら、また接客している姿を見て、だんだんできるようになりました。自分が接客をして、シューズやウェアが売れた時、お客様が探しているサイズの靴を見つけられた時は、本当にうれしかったです。そして、人と接する楽しさを実感しました。

仲間と励まし合い、接客体験を終えた

1日目、2日目、3日目、4日目と、今日より明日と、自分なりに頑張ることができ、成長できた気がします。このような仕事は笑顔がとても大切だということも、わかりました。4日間頑張り通せたのは、お店の方たちがよく教えてくださった事と、一緒に励まし合えた仲間がいたからだと思います。この経験を活かして、これからも頑張っていきたいと思います。ヴィクトリア（株）をはじめ関係者の皆様、ありがとうございました」

ニュース

地域に活きる城西

地域と連携して展開している活動などをご紹介します。

坂戸市・城西大学共同プロジェクト

健康づくり水中リハビリ運動教室

城西大学は、坂戸市との共同プロジェクトとして、高齢者及び身体障害者の運動機能の回復等を目的とした「健康づくり水中リハビリ運動教室」を2010年より開催し、参加者は延べ100人余りにおよんでいます。坂戸市健康増進施設内の温水プールで行われ、城西短期大学渋井二三男教授が効果分析を行い、水野加寿水泳部監督の指導のもと、参加者が楽しくリハビリトレーニングに励んでいます。参加者からは、受講後「体調が良くなった」「継続参加したい」との声が多く聞かれ、市民からの問い合わせも増えており、水中運動に対するニーズの高さが感じられます。

楽しくリハビリトレーニングに励む

2012年度も、坂戸市内在住の高齢者および身体に障害のある方を対象に、サンテさかど温水プールを会場として、第1期教室が5月17日（木）～7月5日（木）に全7回1コースとして開催されます。

教室の内容詳細や2期以降の開催などについては、坂戸市健康増進部健康政策課・健康増進施設サンテさかど（☎049-280-7111）に問い合わせください。

東日本大震災一周年追悼の集い　2012.3.11

復興へ尽力　決意新たに

東日本大震災の発生から1年以上が経ちました。しかし震災がもたらした甚大な被害により、今も多くの方々が悲嘆にくれている状況が続いています。城西大学では同法人の城西国際大学と共に、犠牲となられました方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、復興に向けて少しでも希望の光を灯すことができるよう、追悼の集いを2012年3月11日に開催しました。

当日は午前に、坂戸駅南北自由通路において男子・女子駅伝部員を中心に募金活動を実施しました。集まった募金は全額、被災地に義援金として充てられます。午後からは、大学内の清光会館ホールにて、大学関係者や近隣の方々などの出席にて追悼の集いを実施。午後2時46分、ホール内で1分間の黙とうを捧げると共に、城西大学がこれからも被災地の方々に対しての支援や、復興に向けた取り組みに、大学として尽力していく決意を新たにしました。

追悼の集いには近隣の方々も参加㊤
駅伝部員を中心に募金活動㊦

短期大学

中山間地域活性化への取り組み

埼玉県農林部農業ビジネス支援課委託の「中山間地域ふるさと事業調査研究業務（ふるさと支援隊）」に、城西短期大学の学生が参加するようになり2年が経過しました。活動内容は当初「越生町における地域ブランド（地域団体商標）化への取り組み支援」でしたが、次年度より「梅の地域ブランド化とグリーンツーリズムの構築」へと見直しました。地域団体商標を取得するには、消費者からの高い周知性を確保する必要があるためです。

2011年度は、農業体験やイベントを通してのグリーンツーリズムの先進的事例として、オーナー制度、農村レストラン、農産物直売所の「三種の神器」を備えた栃木県芳賀郡茂木町などを視察しました。ブランド化においては、地域団体商標である京都の千枚漬けなどの現状を視察。2012年1月27日には、「梅産地を元気にする協議会」黒澤会長宅の梅畑で、役場・生産者・農協の皆さんと剪定作業や芋煮会を実施。これは学生版のグリーンツーリズムであり、今後は首都圏の方々の参加を募る形に発展させることが必要と考えています。

田島公子・越生町長とともに芋煮会

支援隊の活動期限は最長4年ですが、2012年度は、東京都中央卸売市場や大型小売店の店頭でキャンペーン活動を予定しています。ブランド化が梅生産者の収益につながり、越生町の中山間地域の活性化に寄与できるよう努力していきます。

産学連携による新たな学び

企業と連携した、実践的なカリキュラムをご紹介します。

経営学部　毎日新聞提携講座　2012.4.11～

「メディア論」講座スタート

「人生のうち約10年間以上をテレビの視聴に充てる」。これは日本人の平均寿命と平均視聴時間の調査から換算したものです。さらに新聞・雑誌・インターネットをチェックする時間などを加えれば、人生の大半をメディアと一緒に過ごすことになります。

そうした各メディアの現状はどうなっているのか？　ニュースを正しく分析・理解する力を養い、「情報化社会」に生きるヒントは？　これに応えるため経営学部は、毎日新聞社の協力のもと講座「メディア論」を2012年度からスタートさせました。各専門分野で活動する記者や論説委員ら14人が講師となり、毎週水曜日に講義する予定です。

受講者の熱気に包まれ、第1回講義スタート

第1回目は4月11日に行われ、取材の一線の生の声が聞けるとあって、聴講希望者が殺到。250人の大教室を用意しましたが、それでも定員をオーバーし、通路や廊下にあふれるほどの人気ぶりでした。

この日は、編集編成局の大澤文護編集委員（前ソウル支局長）が「新聞の役割」をテーマに講義。新聞が作られていく過程や取材の現場について、韓国特派員時代の経験を交えながら話し、学生たちは熱心に聴き入っていました。

大澤編集委員は「メディア論だから、一方的に話す授業ではなく、学生の皆さんと質疑応答を行い、一緒に参加する講座にしましょう」と締めくくりました。

実践的な学びと資格取得

資格取得に関するニュースをご紹介します。

理学部化学科

2011年度 危険物取扱者国家試験合格者

理学部化学科の学生は、在学中の実験実習をはじめ、卒業後も消防法で定める危険物（薬品）を取り扱う機会が多くあります。そこで数年前より、授業等で「危険物取扱者国家試験」を奨励しています。

「危険物取扱者（きけんぶつとりあつかいしゃ）」は、消防法に基づき指定されています。火災の危険性が高い「危険物」として指定されている物質の取り扱いなどを行うことができ、またはその取り扱いに立ち会うために必要となる日本の国家資格で、その詳細は消防法及びその下位法令により規定されています。日本以外の多くの国にも同様の制度・資格・規制が存在します。

2011年度には以下の学生が試験に合格したので、ご紹介します。

＜甲種危険物取扱者＞

資格内容

消防法で定められているすべての危険物（第一類～第六類）の取り扱い及びその保安監督者

資格取得者

河野　睦（2011.11.取得）、美内　優（2011.12.取得）、八木　里珠（2011.10.取得）　＊氏名50音順

＜乙種危険物取扱者＞

資格内容

第一類～第六類の危険物の内、免状で指定されている危険物の取り扱い及びその保安監督者

資格取得者

第一～六類／渡部　建佑（2012.01.取得）

紀尾井町ニュース

法人本部や、姉妹校の城西国際大学でのニュースや行事などをご紹介します。

城西国際大学20周年記念

「世界学長会議」開催

テーマ:世界の転換期における大学の役割と人材育成

2012年4月29日(日)、城西国際大学創立20周年記念「世界学長会議」が東京紀尾井町キャンパス地下ホールにて開催されました。

本会議は、姉妹校の城西国際大学が創立20周年を迎えることを記念し、欧州・米州・アジアなど海外の姉妹校より9ヶ国・地域の12大学の学長や代表を招待して、「世界の転換期における大学の役割と人材育成:Global Education in a Changing World −The Role of the University in the Development of Human Resources」をメインテーマに開かれたものです。

会議に先立ち、水田宗子理事長は「日本の昨年の大震災をはじめ、世界の経済・社会・環境等が世界レベルで大きく転換している今、大学の役割は極めて重要となっている。本日参加された大学の学長や代表者の皆様に、今後のグローバル人材の育成や連携について、おおいに議論を深めていただきたい」と挨拶しました。

会議では、参加大学が二つのセッションに分かれ、"この時代を切り開き、危機・課題を乗り越えていくための人材とは"や、"グローバル教育の取り組み、今後の大学間連携協力"、"グローバルと地域をつなぐ教育"等に関し、世界の高等教育機関が抱える諸問題について、それぞれの国の経済・文化的側面や大学、分野の特色を踏まえさまざまな観点から意見が出されました。セッション2では、城西大学の森本雍憲学長が壇上に上り、意見を披露しました。そして、参加した学長全員が「グローバルコミュニケーションの重要性」と「各国の実情に合わせた具体的な目標・活動の重要性」の共通認識を深めました。

挨拶をする水田理事長㊤
壇上の森本学長㊥
セッションの様子㊦

会場には、城西国際大学や城西大学との交流の深いハンガリー、ポーランド、チェコ、ブルガリアの大使をはじめとした海外関係者、政府・経済団体、企業関係者、マスコミ、他大学や一般の方々など合計200名が来られ、皆熱心に参加大学のスピーチに耳を傾けていました。

会議終了後は別会場でレセプションが行われ、文部科学省大臣官房審議官の常磐豊氏より会議の感想と、今後の本学の国際交流活動への期待する旨の話がありました。また、参加者の間でグローバル時代の人材育成や今後の大学のあり方等について活発な意見交換がなされるとともに、相互の交流が大いに深まりました。

今回の会議を契機に、グローバル時代の大学の役割と人材育成に関しての議論がいっそう深まり、今後の更なる大学間の国際連携強化につながることが期待されます。

参加大学などは、http://www.josai.jp/news/2012/20120429.htmlをご覧ください。

城西人の書籍 BOOK REVIEW

モダニズムと<戦後女性詩>の展開

水田 宗子 (学校法人城西大学 理事長)著

思潮社　2012年1月刊行、定価2,625円

女性詩人たちの表現の根源に迫る

「詩と批評に関わってきた私は、現代女性詩の、一瞬にして読書の心を直撃する詩ならではの表現力と同時に、詩人の感性と想像力、思考や意識をフルに動員しながらも、お釈迦様の掌のような文化構造に捕われてもいる、個人的な表現であると同時に文化表象でもある、その魅力に触発されることが多かった」(あとがき)

「わたし語り」から自己表象へ、近代から現代にいたるまで女性詩人たちが辿ってきた、ジェンダー外部への、孤独で果敢な旅路。<「わたし」という個体>をキータームに、左川ちか、石垣りん、茨木のり子らの作品を丹念に読み解く、渾身の評論エッセイ。

医薬品−食品相互作用ハンドブック 第2版

森本 雍憲 (城西大学・城西短期大学 学長)監訳

Joseph I.Boullata,Vincent T.Armenti 編著

丸善出版　2011年12月刊行、定価19,950円

医療関係者必携の一冊

本書では、単純な医薬品と食品の相互作用はもちろんのこと、さまざまな栄養状態やライフステージに応じた相互作用、がん患者や移植患者といった特定状態下での相互作用など、広範にわたる研究成果を掲載。第2版ではさらに薬物トランスポーター、経静脈栄養を受けている患者における医薬品と食品の相互作用の章が追加され、とくに医療関係者にとってより有益な情報を提供する内容となっている。医療機関に必備なのはもちろんのこと、薬剤師、臨床医、管理栄養士、医療系研究者の方には必携の一冊。

エリア紹介

毛呂山町

緑とふれあいの文化都市

～井上健次 毛呂山町長からのメッセージ～

毛呂山町は、埼玉県の南西部に位置し都心から50㌔圏内ながら、恵まれた自然に囲まれた歴史の息づいた町です。町面積の3分の1が秩父丘陵からなる山里であり、町の特産としては柚子が有名で全国的な柚子産地の経緯をみても、毛呂山町は「元祖・柚子の里」と言える古い歴史があるものです。

武者小路実篤氏が開いた「新しき村」が存在し、町中央に位置する出雲伊波比神社では900年以上の伝統が継承される「流鏑馬まつり」、山間部の鎌北湖や宿谷の滝から最近では東京スカイツリーの展望が楽しめる桂木観音など、年間を通してハイカーなどが訪れる文字どおり「緑とふれあいの文化都市もろやま」です。

毛呂山は「元祖・柚子の里」

900年以上の伝統をもつ流鏑馬まつり

城西大学は毛呂山町内の東武越生線川角駅が最寄り駅であり、毛呂山町と城西大学は「切っても切れない仲」と言える間柄、今後より一層の協力を基に川角駅周辺整備を基軸とした町東部エリアの活性化を進めて参ります。今後も、広報紙を通じて「毛呂山町は、いい町になったなぁ」をお見せしたいもの……ご期待ください。

坂戸市

「坂戸よさこい」にお越しください

坂戸よさこいは、平成13年に市制施行25周年記念事業としてスタートしました。第1回目の参加数は67チーム約4,600人で、約12万人が見物に訪れました。その後、開催回数を重ねる度に参加者・見物者は増え、近年では約120チーム7,000人の踊り子が参加し、約28万人の見物者が訪れるまでに成長しました。現在では、関東一の規模といわれるまでになりました。

このよさこいの見どころは、街中の300㍍級などの道路を各演舞会場とした踊り子による流し踊り、坂戸市文化会館大駐車場に設けられたステージ会場での踊りなどで、各チームによる趣向を凝らした踊りを楽しむことができます。今年は、第12回目の開催となり、8月18日(土)・19日(日)を予定しています。ぜひご来場いただき、楽しいひとときをお過ごしください。

城西大学の経営学部チームによる踊り

東武線沿線情報

蔵造りの町並み「小江戸川越」散策

東武東上線「川越駅」を最寄り駅とする「小江戸川越」。川越ではかつて、江戸との文化・商業の交流が盛んでした。川越のシンボル「時の鐘」をはじめ、重厚感あふれる蔵造りの町並みや点在する寺社、当時の庶民の生活がうかがえる菓子屋横丁など、昔懐かしい景観や江戸の風情を今なお色濃く残しています。

小江戸川越の散策には、東武東上線の各駅窓口(一部駅を除く)で買える「小江戸川越クーポン」が便利でお得です。◎川越駅または川越市駅までの東上線往復鉄道運賃の割引、◎川越駅からの東武バス1日乗り放題(指定区間)、◎協賛店の特典サービス、がセットになっています。

川越のシンボル『時の鐘』

詳しい情報は、東武鉄道お客さまセンター(☎03-5962-0102／8:30～19:00、年末年始を除き年中無休)や、東武東上線・越生線の各駅で配布中のパンフレットなどで得られます。

■城西歳時記

2012年6～9月の、城西大学の主な行事（予定）を紹介します

8. 6(月)～	夏期休業開始
8.27(月)～9. 5(水)	集中講義(短大)
9. 3(月)～7(金)	集中講義(地学実験／理学部、薬学部)
9.20(木)～	後期授業開始
9.23(日)	体育祭
9.28(金)	9月学位授与式・入学式

編集／学校法人城西大学　広報センター
発行／城西大学　総務部総務課
〒350-0295　埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
http://www.josai.ac.jp

2012年6月発行

城西大学
城西短期大学